

リン・リー・リム氏の著書<sup>6)</sup>によると、この種の活動は比較的最近になって始められたもので、成人のセックス・ワーカーに対しては、売春は職業の一つであって犯罪ではないという主張があるそうである。われわれが訪れた組織も、この考え方に基づくものと思われる。しかし、タイの場合は、彼女らが本当に自分の意思で売春という「職業」を選んだのだろうか、また未成年の売春婦に対するケアはどうなるのか、というような疑問がわく。それでも、この組織で救われている女性が多いことも事実である。この問題の複雑さを深刻に感じた。

### ③職業訓練センター

この施設は、タイ国の公共福祉局に所属する国立の教育施設である。バンコク郊外の河の大きな中州に位置している。1960年に売春防止法が制定された後に、年齢に関係なくこの法律に違反した女性の教育の場として設立された。その後1996年に、売買春を禁ずる法律が制定されると同時に、この施設は18歳以下の女兒を対象とした矯正教育施設へと発展し現在に至っている。

現在は157名の女兒が収容されているが、彼女らの経歴は様々である。大多数は売買春禁止法か売春防止法違反か、麻薬等の薬物乱用の罪で収容されたものである。その他にも、だまされて強制的に売春させられたもの、性暴力の被害者、ストリート・チルドレンなどがいる。

ここでは、教育を受けられなかった子どもたちに公式に小学校の2～4年程度の教育をすると同時に、それ以上の教育もする。優秀な子どもは文部省の認定を受けて高校に進学する場合もあるそうだ。

またこの施設は、職業教育にも力を入れている。理容、美容、機織り、ハンドクラフトなどなどいろいろな技術教育を行なっている。この施設を出所した後も、美容などの職業指導を受けるために自発的に習いに来ているものもいるそうである。この施設には最大で2年半まで入れることになっているが、多くはその前に家に帰って親と暮らすようになるそうだ。

ここでのインタビューで、女性の教官は、この施設に来る最近の若い女の子の考え方や行動傾向について次のように話していた。

第一に、女兒たちの性病は少なくなってきたが、精神的なダメージが大きくなってきているそうである。多分このことは、最近の家庭の崩壊現象と関係しているだろうとのことである。

第二に、タイ国内におけるいわゆるトラフィッキングが増えてきているとのことである。女兒たちは、セックス・ワーカーとして、またメイドとして売られるのだそうだ。メイサイでの調査結果から考えると、多分、親が娘を「前借

り」という形でエージェントに渡すのではなかろうか。とすれば、タイの娘たちが外国へトラフィッキングされるチャンスも増えているのではないか、ということが予想される。

第三に、最近になって、娘が親の面倒をみるという伝統的な考え方が変わってきたそうである。最近の娘たちは、親のため、家族のためというよりも、自分で「物」が欲しいために自ら進んで性産業で働くようになったそうである。もちろん、このような娘たちはまだ少数派であろうが、とにかく、タイの伝統的な価値観、もしくは道徳意識は望ましくない方向へと変化しているようだ。

このようなタイにみられる望ましくない若者たちの心の変化に、この教官は心を痛めていた。しかし、この望ましくない方向の変化は、何もタイ国に限ったことではない。残念ながらわが国でも同様であるといわざるを得ない。<sup>5)</sup>「同じアジアの民として、お互いに協力して問題を解決していきませんか」という彼女の最後の言葉が印象的であった。

#### 【職業訓練センター】



### 3) 元セックス・ワーカーに対する調査

今回の調査では、ガイドの役を引き受けてくれた如田真理氏の計らいで、元日本でセックス・ワーカーとして働いていて、現在はチェンライのノッオー村とサンルワン村に住んでいる二人の女性に会うことができた。如田さんは、この地方の元日本でセックス・ワーカーとして働いていた人たちをよく知っている。というのは、3年ほど以前にNGOの仕事として、彼女らの日本での体験を調べる面接調査をしていたからである。タイの人は、知らない人、信用でき

ない人にはなかなか口を開かないそうである。しかし、面接に如田さんが通訳として同席してくれたおかげで、われわれの調査はスムーズに進めることができた。

われわれの彼女らに対する質問の内容は、次の四つに要約される。

- ① どのようにして日本に行ったか。
- ② 日本ではどのような生活をしてきたか。
- ③ どのようにしてタイに帰ってきたか。
- ④ 現在タイでどのような生活をしているか。

以下のところで、彼女らの話しを要約して述べることにする。

### (1) Pさんの場合

彼女は1968年の生まれで現在32歳である。子どもはいない。というのは、子どもを人工授精以外に生めない身体になっているからである。今までの「仕事」が、彼女を子どもを生めない身体にしてしまったとのことである。現在は、彼女が生まれ故郷に建てたかなり「立派な」家で、内縁の夫と一緒に住んでいる。彼女は彼と正式な結婚をしていない。この理由は、「男を信用できない」というところにあるようだ。現在のところ、彼女は「性」と関係するような仕事はしていない。

隣に建っている「普通」の家に母親が一人で住んでいて、彼女はその面倒をみている。父親は大分以前から、新しい女性のところに行って家にはいない。この母親は現在アルコール依存症である。彼女には兄がいる。この兄は現在刑務所に入っている。罪名は殺人。彼は妻をピストルで殺してしまったのである。

彼女は小学校を出るとすぐに、バンコクの性産業にセックス・ワーカーとして働きに行った。多分、親に売られたものと思われる。彼女の話しでは、当時は本当に貧乏で、食べるものにも欠いていたそうである。母親が自分は食べないで子どもたちに食事を与えるという生活が続いていたようだ。

小学校を出たばかりの女の子が、家計を助けるために外へ働きに出る。しかも、かなりの額のお金を稼がなくてはならない。とすれば、セックス・ワーカーとして働く以外に彼女には選択の余地がなかった。彼女の場合は、たとえ売られたとはいえ、承知の上での出稼ぎである。泣く泣く行ったのではないようだ。当然のこととして、そして何もわからずにバンコクに行ったのである。当時は、彼女のような形でセックス・ワーカーとなる女の子が、この地方では多かったそうである。

そこで働いている内に、仲間からより稼げるところとして「日本」の話しを聞いた。躊躇することなく、彼女はその話しに乗った。